

令和8年度県北地区 読書活動支援者育成事業研修会

主催：福島県教育庁県北教育事務所

令和8年7月4日（土）伊達ふれあいセンターにおいて、子ども読書活動推進に向けて活動する方々の専門的な知識や技術の向上を目的として、標記研修会を開催しました。

第五次福島県子ども読書活動推進計画について

重点（ふくしまならではの取組）

- ☆発達段階や多様性に応じた、校種間も含めた切れ目ない取組の推進
- ☆全校一斉読書活動の推進
- ☆学校司書の配置促進（週2回以上の配置）
- ☆学校、地域、図書館等の好事例の紹介
- ☆伴奏支援による各市町村の推進計画の見直しや改訂
- ☆図書館のDX化の推進
- ☆震災関連の図書資料の整備・充実



震災語り部による講話

元東日本大震災・原子力災害伝承館アテンドスタッフ
泉田 淳 氏

「ぼくのうまれたところ、ふくしま」からつなぐ未来へのバトン

「ぼくのうまれたところ、ふくしま」は、泉田氏の経験がもとになった絵本であり、泉田氏があとがきを担当しています。震災後、避難先の埼玉県で双葉町の子どもと埼玉県の子どもがともに学校生活を送るようになりました。双葉町は、オリンピックの聖火リレーが通らない可能性がありましたが、訴え続けることで通ることができるようになり、聖火ランナーを務めました。そこで、表現すること、行動することの大切さを伝えたかったそうです。亡くなった子どもたちのことを思いながら、今も語り部活動を続けています。

＜参加者の声＞15年経ってもまだまだ震災は続いていると思いました。子どもたちに伝えることの大切さを感じました。

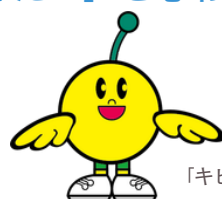


「また聴きたい」と思われる読み聞かせへ

～子どもに届く声と場づくり～

読み聞かせにおいては、読み方の技術だけでなく、安心して耳を傾けられる場づくりも重要です。発声や表現の基礎、絵本の魅力を引き出す読み方の工夫について、実演や演習を交えながら体験的に学ぶことができました。子どもとの信頼関係を育む言葉かけや場づくりについても取り上げ、「また聴きたい」と思われる読み聞かせを目指し、活動に生かせる実践的な内容でした。

ボイストレーニング



「キビタン」©福島県

息を豊富に取り入れ、喉に力を入れずに響きのある声を出す「腹式呼吸」を練習しました。後ろの席まで届くよう、声を大きくするトレーニングもあり、声量の変化を実感できました。母音の発音や舌の正しい位置を意識することも重要です。

読み聞かせのポイント

子どもは、絵本の世界に入り込み、感情を動かして物語を「体験」しています。絵本をより良く体験できるよう、臨場感のある読みや、登場人物をイキイキと表現することがポイントです。声の高さ、スピード、間、強調についても実践しました。

安心できる場づくり

子どもが安心して過ごせるよう、挨拶＋α、3つの「YES」、共通点探しなど、オープニングトークの極意について学びました。また、ふさわしい言葉かけや、「聞かせる」意識から、時間を「共有する」意識への転換も大切とのことでした。

＜参加者の声＞具体的な読み聞かせの技術や心を教えて頂き、とても参考になりました。基本と応用を一度に教えていただいたようで、とても実のある時間でした。今後の活動に生かしていきたいと思いました。

